

学習会・自然観察の中で外来生物とどう向き合うか

私たちが野外でみる生き物は、外来生物が「ふつー」になっていませんか。

近くの池では、カメと言えばアカミミガメが大半。ザリガニはアメリカザリガニしか知らない。泳いでいる魚はメダカと思っていたらカダヤシ、水中ではブラックバスかブルーギルが群れで泳いでいる。浮かんでいる植物はボタンウキクサかホテイアオイ。日本の種はどこへ行ったのか。草地でもセイヨウタンポポやセイタカアワダチソウ。タヌキがいたと思ったらアライグマ・・・と本当に外国産の生き物をよく見るようになった。環境省は、2005年に「外来生物法」を施行しキャンペーンを始めているが、まだまだ実態は知られていない。

私たち野外で自然観察や保護・保全活動をしようとしている者でも、外来生物の実態や対処方法をよく知らない。こんなことではいけないと、自然保護では同じ想いの「NACS-J 大阪」と「大阪自然環境保全協会自然保護部」が共催で、外来生物学習会を企画しました。

野外の外来生物への対応、処置の方法。大阪での実態把握などを学習しませんか。

記

【テーマ】 自然観察の中で外来生物とどう向き合うか

【日時】 2008年1月26日(土) 午後1時～4時30分

(受付12:30開始。お早い目に来たほうがお得です)

【場所】 大阪府環境情報プラザ・研修室
(大阪市森之宮「JR森ノ宮」駅下車、
大阪府立公衆衛生研究所横)



【プログラム】

(1) 外来生物法と大阪での現状

柴崎高宏 (大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課野生動物グループ)

外来生物法で規制される内容や、特定外来生物の指定など、外来生物に関する基本的な内容を、具体的な大阪府下での外来生物の現状を例にしながらお話していただきます。

(2) 外来動物は、何が問題なのか

高柳 敦 (京都大学農学研究科)

外来動物の何が問題なのか、そして何が起きているのか、などをペット問題や最近話題になることの多い身近な生物の問題など、具体的な問題をあげながら話していただきます。

(3) 外来植物と生態系の変化

青木 繁 (グリーンウォーカークラブ)

外来植物の変化は、身近な環境の急激な変化を反映したものです。外来植物の増加は何が問題なのか、環境変化と外来植物の実態などについてお話していただきます。

【参加費】 無料 (申込み不要。遅れた方について、配布物がなくなった場合は、ご容赦下さい)

【主催】 NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会、(社)大阪自然環境保全協会

【後援】 (財)日本自然保護協会

*外来生物に関する資料の配付などありますので、大変有意義な内容です。

#この企画の発端は、NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会の15周年記念としてです。

多くの会員のご参加をお待ちしています。(日本自然保護協会機関誌「自然保護」1/2月号のイベント欄に掲載予定)
問い合わせについては、事務局:ひろさき (widecape@nifty.com または 090-4568-6457)